

さやま 環境市民 ネットワーク

レポート

No. 13

2007年1月10日 発行

年頭にあたって さやま環境市民ネットワーク 会長 石田 嵩



あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、おだやかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、さやま環境市民ネットワークも設立から3年が経過しました。お陰様で会の目的であります市民、事業者、行政、各種団体がネットワークを組んだ環境活動の輪が大きく広がっております。

一方、温暖化防止の願いもむなしく、現在もCO₂が増え続け、世界各地で異常気象や自然災害が続発していることがとても心配です。国をあげての1日も早い大きな取り組みを望まずにはいられません。

今年も、さやま環境市民ネットワークは、狭山市の激減する緑地の保全、ごみ問題、温暖化対策、川の問題などに引き続き取り組みます。本年もご協力よろしくお願い致します。

環境市民として共に行動しませんか

今年度、さやま環境市民ネットワーク（略称：さや環）全体では「入間川再発見・環境ウォーク2006」を開催しました。

分科会事業として、緑の分科会では緑の保全に関する国・県・市・市議会への要望や、狭山市みどりの基金への協力要請等。川分科会では川をフィールドにした環境教育支援活動やこれからの入間川の有り様の学習等。ごみ減量分科会ではごみ減量対策の検討や、市のリサイクルプラザ棟計画検討への参画等。温暖化対策分科会では市の地球温暖化防止推進計画検討への参画や、小・中・高・大学生を対象とした県のエコライフDAYへの協力等に積極的に取り組んできました。ご関心のある分科会に積極的に参加して頂けたら幸いです。



入間川で植物観察する子どもたち

さて、今年度の総会で「さや環のNPO法人化の検討」が承認され、法人化に向けての作業を始めています。そのねらいは、さや環の自立性及び主体性の強化、環境に配慮したまちづくりの推進力の強化等にあります。しかし、法人化に際しては、活動をコーディネートしていく人材の確保、法人としてのマネジメント機能の強化等、課題が少なくありません。法人化はあくまで手段です。重要なのはさや環の活性化です。

そのためには環境に関心を持ち、自ら行動する「環境市民」の存在が不可欠です。ぜひ、多くの市民の方々にさや環の活動に共感していただき、共に行動していただきたくお願い申し上げます。

入会ご希望の方は、紙面末尾に記載のさやま環境市民ネットワーク事務局までご連絡下さい。（副会長 毛塚宏）



環境くん

石川しげひさ

すみません、
コタツに入れてください

各分科会の活動報告

自然は文化 “トトロの森を訪ねて”

11月25日、緑の分科会主催のトトロの森見学会（参加者：22名）が行われました。トトロのふるさと財団事務局長の門内さんによると「市街地にぽっかり浮かぶ緑の島、狭山丘陵（約3,500ha）に点在するトトロの森」は、1号地から6号地（計約1.2ha）まであります。これらは狭山湖、多摩湖の緑地保全の砦としてナショナルトラスト方式により取得されました。里山の景観を主にした1号地、里山管理の実践や環境教育に活用されている2号地など、それぞれ特徴ある保全をめざし活動中です」。

また、「組織づくり、参加者の確保、保全方法、物納物件の競売による虫食い状の自然破壊など、さまざまな問題を抱えながらも、保全活動の初期（1980年代）から一貫して行政企業、地権者等に対して積極的に提案・提言を積み重ねつつ合意形成をはかり、成果を上げています」との



秋の散策日和の中、トトロの森を見学



ドレミの丘から市街地を望む

事です。

お話を伺ってのち、すばらしい秋の散策日和の中、2号地に向かって出発しました。途中、荒幡小学校の生徒たちが誰ともなく名付けたドレミの丘に立ち寄りました。その丘からは「先祖から受け継いだ丘をそのまま残したい」と所沢市に寄付された地主さんと、丘に遊ぶ子どもたちの心のハーモニーが聞こえてくるようです。

「この地に暮らした人々の息吹を伝える“ぽっかり浮かんだ緑の島、狭山丘陵”を歴史的、社会的、文化的財産として守り育て、後世に残したい」という門内さんの言葉は、そのまま私たちみんなの願いです。

（緑の分科会 竹村れい子）

ふるさとの川——入間川の川づくりを考える

勉強会における学習成果

12月9日（土）3回シリーズの勉強会が終了した。

第1回 「さいたまの川、全般について」

第2回 「入間川について」

第3回 「第1回、第2回のおさらい」

「入間川のいい川づくりフリートーク」

講師として、埼玉県河川砂防課職員、及び、土木事務所職員の皆様をお願いした。

フリートークの中では、今、我々が入間川の川づくりで何ができるか、何をしたらよいか、何から始めなければならないか等、幅広く討論し、次のような内容を平成19年度のテーマとして検討する事になった。

第1に、入間川川辺の最悪なトイレ事情の改善を県に要請。

第2に、生態系の問題で、現在回遊魚がすべて秋ヶ瀬の堰でストップしている。これは入間川全域の重大な問題である。一日も早く魚道の整備が必要だ。この件の問題提起を「狭山から発信したい」との意見が出た。（狭山市議会でその旨を議案提出してもらったらどうか）

第3に、「親水公園づくりを我々みずからの手で始めなければ」という意見で、県の「水辺の里親」制度も兼ね、水辺の全般的な環境維持、保全

や遊びの場づくりを小さな第一歩としてスタートさせる。計画場所として昭代橋付近、国道16号側であるが、この事業計画内容は市から県への申請が必要のようである。

以上、3回にわたる勉強会の結果、先ず実行しなければという気運を、川分科会の全員が感じているようである。（川分科会 鈴木英有）



狭山市内それぞれの川の水質比較検査



昭代橋付近の入間川

緑のカーテン

住宅に対するこだわりは、“明るさ”、“日当たり”、“冬の快適さ”、“夏の快適さ”が上位にいたところ、生きた植物を利用した緑のカーテンが効果的という情報を得て、さっそく試してみました。思ったより簡単に作れて効果があり、4℃近くも室温の上昇を抑えることができることがわかりました。

暖房が必要な季節の太陽の恵みは、大いに歓迎するところですが、冷房が必要な季節の太陽の恵みには、ちょっとご遠慮願いたい心境になるときもあります。直射日光や、照り返しによる部屋の温度上昇は、あるときは耐え難く、先人たちはヨシズやスタレを上手に使ってこの難題を解決してきました。しかし、もう少



風情のある緑のカーテン

し風情があり、効果のあるものはないかと思っ

カーテンの材料は、ゴーヤ、アケビ、ヘチマ、アサガオなど、つる性の植物がよく、お役目の終わった段階で撤去なり剪定して、また来年。ゴーヤやアケビは実を食べることができ「採れたてを食卓へ」が手軽に実現できる余得もあります。材料費は、つるを遮らせるネットなど3,000円ほど。ぜひ一度試してみませんか。ご希望の方は、緑のカーテンの作り方、手入れ方法等ご相談ください。

(温暖化対策分科会 本橋亮一)

ごみ減量分科会活動報告

(1) 11月11日(土)「第19回上赤坂の森クリーン活動」を行いました。上赤坂の森と、くめぎ山の2箇所を会場に、地元自治会・環境衛生委員会、環境団体と一般市民、それに企業からも多数の参加があり、さや環のメンバーも大勢参加して、合計316名でした。

森を守ってというこの市民の思いの表れでしょう。森の木々が出す素晴らしい空気をいっぱい吸いながら、森の中まで入り込んで収集したごみは2.9トン。年々少なくなりますが、まだこれだけのごみが大切な森を汚しています。

終わってから、温かくおいしい羊汁で和やかな気分になりました。



狭山市堀兼最終処分場
——ごみは燃やしてもなくなったわけではない

(2) 11月18日(土) 上奥富運動公園で「リサイクルマーケットさやま」が行われ、ごみ減量分科会から7名が参加。資源循環推進課の協力を得て、分科会で検討した「ごみ減量のPR」を行いました。「環境クイズに参加しませんか？」の紙を渡し、問題の選択肢から解答を選んで、展示を見たり説明を聞いたりして正解を理解してもらいました。参加者には、生ゴミ肥料や水の分子模型などを渡し、ごみ減量について関心を持ってもらいました。

また、「ペットボトル潰し」で体積が2/3に減ることを、子どもたちに体験してもらいました。各家庭で潰せば、保管場所が少なくて済み、収集場所もとらず、運搬するトラックが減り、二酸化炭素の排出を減らすことも出来ます。

(ごみ減量分科会 吉村七郎)



★ 環境を良くするため、私が取り組み始めたこと

- (1) 国道16号の信号のタイミング調査。
注意して16号を走って見たら、なんと、信号で次々と停車するようになっているではないか。これは改善できるのでは、と詳しく実態を調査することから取り組みはじめてところです。
- (2) 「狭山の巨木」の調査。

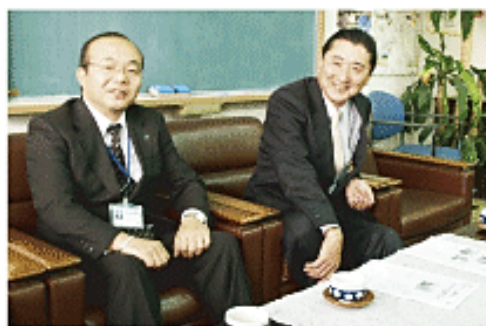
何世紀も狭山を見つめてきた巨木を大切にしたいと思いますので、幹回り3.8メートル以上の樹木が有りましたら教えて下さい。現在、広瀬神社の榎と、中央公民館向かいの銀杏が確認されています。(横山 駿)

シリーズ「事業者環境活動紹介」★3 JAいるま野狭山事業部

「物事の原点ですヨ、綺麗にする事は！」

平成18年11月16日、JAいるま野狭山事業部（会員2800世帯）を訪問。「さやま環境市民ネットワークに加入された動機はどこにあったのですか？」の編集子のズバリの質問に、標題の回答を大沢道則事業部長から頂いた。「職員は就業時間前にも出社して、事務所周辺の掃除を自主的に実施しています」「堀兼・上赤坂の森の森林施業も、貴重な武蔵野の森を残したい、美しい狭山、癒しの森、里山を維持したいという気持ちで、地域への奉仕活動として続けています」。

堀兼・上赤坂の森のクリーン活動を2回/年(延べ4日)、JAいるま野がバックアップして実施している。森林の地権者や行政、市民団体及びボランティアの参加を得て400人/回の動員で、不



市川ふれあい課長(左) 大沢事業部長(右)

法投棄の廃棄物の除去や森林施業（落ち葉掃き、萌芽更新等）を実施している。「継続して森を綺麗にする事が非常に大切な事です。手を抜くとすぐに森は荒れます」と自己の体験からの言葉が続いた。

森林所有者の方々の営農が継続されるように、緑豊かな里山を維持・保全されるような数々の施策（行政、地権者、そして市民を取り込む活動）をJAいるま野狭山事業部の経営の柱の一つに掲げている事も力説された。

最後に、さやま環境市民ネットワークに期待する言葉をうかがった。「市民が“綺麗にする”の意識を持つきっかけを作って欲しい、タバコの吸殻のポイ捨てなどはとんでもない蛮行です。小さな事でも良い、身近な事から改善活動をするきっかけ作りを期待します」と。

(編集員 小川 繁)

イベント情報

環境講座「毎日省エネ、賢いスマートライフ」

楽しく、財布にもやさしい省エネ術をまなびます

- 日時＝1月21日(日) 午後2時～4時30分
- 場所＝中央公民館第二会議室
- 講師＝大庭みゆき氏 環境エネルギー総合研究所所長
- 主催＝さやま環境市民ネットワーク/狭山市中央公民館
- 問い合わせ＝土淵 昭 Tel. 2954-3488 / 児玉 靖 Tel. 2957-5159

環境講座「多自然川づくりと河川景観の形成」

豊かな自然と人の暮らしが調和した美しい川づくりを考える

- 日時＝2月25日(日) 午後1時30分～3時30分
- 場所＝中央公民館ホール
- 講師＝国土交通省関東整備局河川担当官(出前講座)
- 問い合わせ＝鈴木英有 Tel. 2954-0284 / 伊藤勝彦 Tel. 2956-6357

森林施業活動「倒木の片づけと下刈りヤクス(落ち葉)掃きなど」

- 日程＝① 1月20日(土)・21日(日)
- ② 2月17日(土)・18日(日)
- 時間＝午前9時～午後3時(雨天中止)
- 場所＝赤坂の森運動公園臨時駐車場に集合/堀兼・水野地区内平地林
- 募集＝①の参加者は 1月10日まで
- ②の参加者は 2月2日までに申し込み下さい。
- 申し込み・問い合わせ＝さやま緑と里の会事務局

JAいるま野狭山事業部ふれあい課 Tel. 2963-6211



昨年5月の総会以降「狭山市みどりの基金」に各種団体、個人、事業所から寄せられた寄付・募金の合計は、12月15日現在¥1,359,705(内¥95,547はクローバーマークなし)です。どうもありがとうございました。今後も引き続き、基金へのご寄付ご協力をお願いします。

市内在住・在学・在勤の個人、市内で活動されている民間団体や事業者であれば入会する事が出来ます。皆さまのご入会をお待ちしております。

会員募集

年会費：市民 1,000円 / 市民団体 3,000円 / 事業者 一口 5,000円
 会員数＝平成18年8月15日現在(総数210会員)＝個人 177名 / 団体 24団体 / 事業者 9事業者

さやま環境市民ネットワーク事務局(狭山市環境部環境政策課内)

Tel.04-2953-1111 内線=3671・3672 Fax.04-2954-6262
 E-mail=kankyo@city.sayama.saitama.jp
 ホームページ=http://kankyosimin-net.sakura.ne.jp/mysite25/